

大牟田市立平原小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、地域の実情、社会の要請に基づいて、消費者教育・福祉教育について継続して取り組みを進めてきている。また、中国大同市第十八小学校と長年交流を続け、国際理解教育の一環として、毎年、正月や春節を祝い合うプレゼントの交換を行っている。

また、岡山市立御休小学校ともユネスコスクール交流校として、ビデオレターや手紙、活動を紹介するポスター等を通して交流を図っている。

今年度は、コロナ禍にあつて、これまで行ってきた学習や活動で実施できなかったことも多かった。その中においても、「できることをできる形で」と工夫してESDに取り組んできた。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

消費者教育・福祉教育の主な計画

	福祉教育	消費者教育
1年	たのしもうあき（生活科） ※幼保小交流	さあみんなでかけよう（生活科） ※地域や公共施設への関心
2年	つくろうあそぼうくふうしよう（生活科）※異学年交流 レッツゴー！町たんけん（生活科）※校区の店を通した消費生活の理解	
3年	つながり合う心Ⅰ（総合） ※介護施設・独居老人宅を訪問	まちではたらく人々（社会科） ※ものの選び方や買い方等
4年	つながり合う心Ⅱ（総合） ※障がいについて学ぶ	リサイクル大作戦（総合） ※持続可能な消費
5年	伝統を引き継ごう（総合） ※卒業生や新入生との関わり	食料生産、工業生産を支える人々（社会科） ※生産と消費の問題
6年	※各行事等を通した下級生との関わり	くふうしよう朝の生活（家庭科） ※商品の安全と危険の回避

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 国際理解に係る活動

中国でのコロナウイルス感染拡大に伴い、大同市へ応援メッセージを送った。日本でも感染が広がってくると、大同市の第十八小学校からメッセージをいただいた。

また、第十八小学校とは、例年、正月の時期に合わせてお祝いのカードやプレゼントを作成し、送り合っている。外国の年末年始について学習するために、「国際理解教育講師派遣事業」を活用し、子供たちは、中国、韓国、タイの方と交流し、多様な文化・風習について学ぶことができた。



(2) 消費者教育

「オリジナルエコバッグ」の製作

今年度は、「平原フェスタ」など地域との交流を深める機会の多くが失われた。そのような中で、地域とのつながりを切らさないために今できることは何かを考え、消費者教育との関連から、オリジナルのエコバッグをつくる計画が持ち上がった。

そこで、実行委員を組織し、デザインの決定から製作まで、高学年の児童を中心に関わっていった。保護者や地域の方からは是非ほしいとの声をいただき、当初の予定を大きく上回って400個製作することとなった。ボランティアを募って、アイロンプリントや袋詰め作業を行い、希望された方に購入していただいた。

この活動によって、わずかに収益も出た。それを活用して、「地域とつながるプロジェクト」として、活動を継続発展させていく予定である。



(3) 校区清掃

地域とともに行っていた活動でもう一つ実施できなかったのが、校区清掃である。例年、地域の方とともにグループに分かれ、それぞれの町内で清掃活動を行っていたが、子どもたちだけで実施することとした。

そこで、縦割りグループで校区内5カ所の公園に出かけ、除草や清掃を行った。自分たちが使う公園をきれいにするというだけでなく、普段の使い方も考えることができた。お菓子の袋などのごみも見られたことから、終了後には上級生から全員に対して、校区の公園をきれいに使おうと呼びかけていた。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ 様々な制約がある中で、どのような活動ができるかということを考え、実践につなぐことができた。地域の方との直接的な交流はできなかったが、そのことで、これまで大人に頼っていたことも高学年の児童が自分たちで進めていこうとする自立心を育てることにつながった。
- ・ 外国の方から、直接自国の文化を紹介していただき、文化の多様性について理解することができた。日本の正月を紹介する活動も行ったため、おせち料理に込められた思いなど、我が国の文化・風習についても改めて知ることができた。

○課題

- ・ 来年度、地域と協働して行う活動もまたできるようになると思うが、今年度高まった子どもたちの力を生かして、継続的・発展的な学習を工夫する。